

たかしゅう

学校を花でいっぱいになりたい

高倉小学校では、1学期に生け花の講師をお招きして教職員全員参加で「花ひろば」という生け花の研修をしました。「毎日忙しいのに、何でこんな研修を？」と疑問に思っていた先生もいらっしゃいましたが、いざ研修が終わって



みると「花をこんなにじっくり見たことなかった」「一輪の花も子どもと同じでよく見てあげることその良さを引き出せると思った」「花と対話ってできるんだ」「本当の自分と向き合えた気がする」などの感想が出てきました。

その研修でいただいた牛乳パックで作った花器を使って、各教室に花を生けています。また、4月に管理作業員さんに「学校を花でいっぱいにしてください。」とお願いしたら、すぐにプール前の円い花壇にアジサイの苗を植えてくださりました。お花のプランターも少しずつ増えています。

さて、「学校に花と緑を」というテーマで気になる話があります。学校で起こった事件に取材に行く記者が当時の研修会で語った話です。神戸市連続児童殺傷事件（1997年：酒鬼薔薇聖斗を名乗る14歳の少年の犯行で社会に衝撃を与えた）、佐世保小6女児同級生殺害事件（2004年：佐世保市の小学校内で当時6年生の女児が同級生にカッターナイフで殺害された事件）他あと2件。学校が舞台になった事件があり、その4件の殺傷事件が起こった学校に「ある共通点」があることに気づかれたそうです。それは、「学校に花がなかった。」ということでした。子どもたちは、枯れて土だけになったプランターや雑草しか生えていない花壇の横を毎日通学していて、特に佐世保市の小学校は緑の樹木も少なく学校全体が殺伐とした景色だったそうです。子どもたちが生活する学校に花や緑があることは私たちが想像する以上に大切なことなのかもしれま

せん。そういう意味でも高倉小学校では、1年間365日どこかで何かの花が咲いているという状態にしたいと考えています。

私自身、父親が茶道（石州流）、母親がお花（末生流）をやっているという変わった家で育ち、身近にいつも生け花がありました。私が教室にお花を生けていると子どもたちが手伝ってくれます。時々「私もやりたかった…」と残念そうなお子もいるので、12月からは美化委員会の仕事とし



て位置づけて、子どもの活動にしていくなりました。また、来年はクラブ活動の中に「お花クラブ」を新設

し、みんなで花いっぱいの学校を作っていきたいと思っています。



います。

また、校内の田んぼで5年生が育てた稲が実り、高倉米が収穫できたので調理実習でいただきました。毎年、抜群に美味しいと評判です。2年生が育てたサツマイモはこの夏の猛暑で出来が悪かったため、先生方がスーパーで買ってきたサツマイモを畑に埋めて「いも探し」をしました。



た。そのあと、「おいもパーティー」としてホットプレートで蒸し焼きにして美味しくいただきました。校内

の柿の木の「柿」も美味しいです。（食べるのは職員だけですが）このような様々な「命あるもの」の中で過ごし、花の美しさを実感したり、自然の恵みを味わったりしてほしい。大自然の中で「生かされている」ことを実感できないと自然に対する感謝の気持ちは生まれません。命を大切にすること」を黒板とチョークで教えるのではなく、「自然にふれる」「命を育てる」を通して子どもたちが心の底から「大自然」や「命」に対する畏敬の念を抱くことができるようにしていきたいと思っています。



